

# パ ッ ク ボ ー 便 入 門

稲 谷 昌 則

## ●バックボー便とは

日本の切手上に、外国局で消印されたものや、PAQUEBOT又はその綴りの一部で抹消されたもの(①)等を時々みかけますが、これらは大概バックボー便として、公海上を航行中の日本の船舶内で投函されたものです。

公海上にある船舶内で差し出された郵便物には、その船舶が所属している国の切手が貼られ、料金もその国のものが適用されることが万国郵便条約に取り決められています。

船内局のある船舶では、——最近では、豪華客船にできえ少なくなってしまいましたが、その局の消印がされ、郵袋に入れられて受渡し局に渡されます。この場合はシーポスト(SEA-POST)と呼ばれています。ところが船内局がない場合、寄港地の郵便局が便宜をはかることになっていて裸のまま、郵便局に渡されます。その局では、船内で投函された証示を行い、切手に消印をします。ここで外地使用の例が生じます。これがバックボー便と呼ばれるものです。厳密にはバックボー便には、それを取扱った局でその証示が行なわれることが好ましく、船内であらかじめその証示が行なわれそのまま送られた場合はマーチャントマリンカバー(Merchant Marine Cover)(②)と呼ばれ区別される事もあります。

## ●バラエティ

船内で投函された証示には、一般にPAQUEBOT(郵船の意)が用いられます。バックボー便と呼ばれる所以ですが、国或い

は局によっては、色々の表示がありますし、バックボー便の取扱いそのものも、バラエティにとんでいます。まえおきが長くなりましたが、私が集めたバックボー便の中から、バラエティや毛色の変ったものを取り上げて紹介してみたいと思います。

③～⑦は最も多くみられるタイプでPAQUEBOT印を証示印として使用し、日付印で切手を消印したものです。③は機械印、④はPAQUEBOTを手書き、⑤⑥は手押し印、⑦は機械印、手押し印併用でPAQUEBOT印は枠付きです。⑧も⑤⑥と同じものですが、消印の仕方はじめ取扱いにとでも気をつかってくれたものです。消印等をした後、わざわざ別の封筒に入れて送ってくれました。あて先を日本語で書いていたため、ゼロックスでコピーして封筒に貼り付けてありました。局員氏も郵趣家であったのかもしれませんが。⑨はタイプライター使用、⑩は局名入り、さらに⑪は郵便番号入り。⑫はPAQUEBOTと綴ったもの、⑬は同綴りで局名入りです。⑭はPACQUEBOTと綴ったもので、Zürich局より留置期間経過で戻されてきたものです。⑮はPAQUEBOT/PAQUETEと二段に表現したもの。⑯はPACKET BOAT、⑰はPAQUET BOAT。⑱はShip Letter(左下のPAQUEBOT印は砕永艦「ふじ」艦上で押印のものです)。⑲はNAVIREと手書きで、はっきりみえにくいと思いますが、機械印と手押し印とダブルしています。⑳～